

# 平成22年度 研修計画

四日市市立富洲原小学校

## 研修の経緯

15年度より「学びの一体化」の研究を進め、子ども一人ひとりに確実な基礎学力をつけることを大事にしてきた。しかし、真の「確かな学力」をつけるためには基礎学力を大切にすると共にそれを土台に考える力も大事であると考え、16年度より授業づくり（研修）では「思考力を高めるための手立てを探る」という内容で研究を進めてきた。20年度からは、子どもの実態を踏まえ、考える力をつけるためにより内容を焦点化し「自分の思いを伝え、高め合う授業を目指して」を内容に研修に取り組んでいる。

### 1、教育目標

夢と希望に向かって、心豊かに育ち合う子どもに育てる  
〈目指す子ども像〉

- ・ 学びを深める子
- ・ 互いに認め合い、助け合う子
- ・ 自信を持ち、自分たちで最後までやりぬく子
- ・ 体を鍛え、元気で明るい子

### 2、研究主題

確かな学力を身につけ、自ら学び、実践できる子どもの育成

### 3、研究内容

自分の思いを伝え、高め合う授業を目指して  
～友だちの意見を聞くことや自分の思いを伝えたいと思える授業づくり～

### 4、研究領域

全領域（国語・算数）

### 5、研究内容と領域について

平成16年度（1年次）より**研究主題**を

「確かな学力を身につけ、自ら学び、実践できる子どもの育成」

とし、**研究内容**を

「思考力を高めるための手立てを探る」

として研究に取り組んできた。

1年次の研究では、思考力を高めるためにはまず自分の思いや考えをもたせることが大切だと考えた。その手立てとしては、

国語科では動作化や書き込みといった課題に対して向き合う活動を多く取り入れた。

算数科では、算数的活動などの具体的な操作を重視して、子どもたちが解決の糸口を見つけやすいように工夫した。

研究が進むにしたがい、思考力をどのようにとらえ、思考力が高まった子どもとはどんな姿なのかについて教員同士の共通理解を図る必要があること、またその姿に迫るためにどのような手立てを大切にすべきなのかなどの課題もでてきた。

平成17年度（2年次）は、1年次の反省をふまえ、

**思考力とは・・・ある事実から連想したり創造したりする力、事実と事実を関連付けてとらえる力、概念を形成する力、推理する力**

ととらえ、富洲原小学校での目指す思考力の高まった子ども像を

**課題に対して進んで自分なりの考えを持ち、工夫しながら解決していこうとする子。友達と意見交換をしたり、課題が解決できたりした経験を通して、考えることが楽しいと感じられる子。**

と確認した。それを基に子どもたちは、

- ① 課題に出会い、じっくり考える。
- ② 自分なりの思いや考えをもつ。
- ③ 話し合い活動において、考えを深める。

この一連の活動を繰り返し経験しながら、思考力を高めていくのではないかと考えた。

そこで教師は、

- ① 考える過程を大切にしたい授業の組み方
- ② 考えを持たせる方法
- ③ 考えることが楽しい、また考えてみたいと思える授業の進め方

この3つのテーマ（指導の重点）について研究を進めた。

思考力を高めるためには、その場で友達の意見を聞き、感じ、自分の言葉でやりとりができる、意見のすりあわせができる話し合いをしなければならぬことがわかってきた。また、確かに授業で発表する子は増え、友達の意見を聞いて反応する子も増えてきているが、何によって検証するのかについても研究を進める必要がでてきた。その反省にたって、

18年度（3年次）は、子どもの思考力の高まる活動に1つ追加した。

- ④ 自分の考えを改めてまとめる。

とし、教師の方にも1つ追加した。

- ④ 検証の仕方
  - ・ つけたい力を明確にし、指導と評価の一体化を図る

その結果、たくさんの成果もあったが、話し合いが深まれば深まるほど発表が一部の子に限られてしまい、低学力の児童にとってはかえって難しくしてしまうという課題も見えてきた。

19年度（4年次）も子どもの思考力の高まる学習活動はそのままで、教師のテーマの①を次のように変えた。

- ① 低学力の児童への指導の手立て

「低学力児への指導の手立て」を探る研究では、自分の考えを持つこと自体なかなかできず、話し合いにも参加できないことが多い児童には、書く活動を継続して行うことで、考えがまとまった児童もいた。教師のヒントカードや友だちのアドバイスによって、考えようという意欲が持

て、グループやペアで学習することで自分の気持ちを発表する姿も増えてきた。などの成果が見られた。

国語や算数の授業はもちろんのこと、日常生活の場においても、子どもが自分の思いをしっかりと伝えるようにしていきたい。そのためには、相手を意識させて、自分の思いを伝えることや友達の意見をしっかりと聴き、つなげて発表することなどを身につけさせ、意見の絡み合いで考えを深めていく授業を目指していきたい。

そこで20年度は、4年間の研修内容で得られた思考力をつけるための手立てを、児童に実態に即して講じながら研究主題に迫りたいと考えた。そして、現在の児童の姿からつけていきたい力を焦点化するためにも、研究内容を

**自分の思いを伝え、高め合う授業をめざして**に、

また、思考力が高まった子ども像をより具体化して研修を進めることにした。

**課題に対して進んで自分なりの考えを持ち、工夫しながら解決していこうとする子。友達と意見交換をしたり、課題が解決できたりした経験を通して、友達の意見を聴くことや自分の思いを伝えることが楽しいと感じられる子。**

子どもの思考の高まる学習活動の③を次のように変えた。

- ①課題に出会いじっくり考える。
- ②自分なりの思いや考えをもつ。
- ③**気持ちや思いを伝え合う。**
- ④自分の考えを改めてまとめる。

そして、研修を進めるに当たり4つのテーマのうち①と③を次のように変えて大切にしていきたいと考えた。

- 1 「考える過程を大切にした授業の組み方」として、児童が考えを高め合うことができるための単元のながれ、1時間の授業の組み方、課題設定の仕方など。
- 2 「考えを持たせる方法」として、国語は視写、書き込みなど、算数は算数的活動の重視、一人学習ができない児童への手立て。
- 3 「**自分の思いを伝えることが楽しい、また伝えてみたいと思える授業の進め方**」として、考えを発表させるだけでなく意見のすり合わせをする活動のさせ方、教師の出場、低学力の児童も自分の考えを広げられる授業の持ち方、読んだり発表したりする機会の設定、しっかりと聴く態度の育成。
- 4 「**検証の仕方**」として、どの意見、どの発問、どの活動がきっかけで考えが変化していったのかの見極め、その児童なりの考えが出せればよいというわけではないので、教師自身が評価をしっかり持つ。

領域については昨年までと同様に「国語・算数」にする。ただしこれは、研究の窓口にするということである。自分の思いを伝え高め合う力は、2つの教科でじっくり取り組んだだけで簡単に身に付くものではない。他の教科の中でももちろんであるが、生活の中で培われていくことの方が多く考えられる。いろいろな場面で子どもたちに考えることを要求し、自分たちでなんとか考えていこうという経験をさせていくことが真の思考力を高めることにつながると考える。

平成21年度(2年次)は、継続して研究内容に取り組むことにした。

子どもの思考が高まる学習活動の特に③「**自分の思いを伝えることが楽しい、また伝えてみたいと思える授業**」と④**他者の考えを聞いて「自分の考えを改めてまとめたり深めたりする授業**」にこだわって研修を進めてきた。もちろんそのための前提として「①課題に出会いじっくり考え

る。②自分なりの思いや考えをもつ。」をとらえてきた。

年度末の全体研修会では、「聴く・話す姿勢の育成」「考えを持たせる手立て・時間の保障」「多様な考えが引き出せる課題設定」「考えを出し合える学習集団作り」等が重要なことが確認された。

平成22年度(3年次)は、継続して研究内容・領域に取り組むことにした。

年度末のまとめで、2つの課題が確認された。

1つ目は、課題についての話し合いをどう深めるかということである。自分の考えを持たせるための手立てによってさまざまな考えが出せるようになったが、それらをさらに深めていくためにはどうすればよいかということである。予想される子どもの考えのどれに焦点を当て、どのように絡み合わせていくかなどを考えた授業づくりをしていきたい。

2つ目は、つけたい力を意識した授業づくりである。何を目指して何についてどのように話し合わせるのか。その話し合いによって、どんなことを確認し理解させたいのか。授業の中で子どもたちに力がついたかどうかの検証活動をいれていくことを大切にしていきたい。そのために指導案にも「つけたい力」を位置づける。

1つ目の課題は、テーマ(指導の重点)の①と③。2つめの課題は④に関わってくる。この点を大切にしながら研究主題に迫るように研修を進めていきたい。

- ①「考える過程を大切にした授業の組み方」として、児童が考えを高め合うことができるための単元のながれ、1時間の授業の組み方、課題設定の仕方など。
- ②「考えを持たせる方法」として、国語は視写、書き込みなど、算数は算数的活動の重視、一人学習ができない児童への手立て。
- ③「自分の思いを伝えることが楽しい、また伝えてみたいと思える授業の進め方」として、考えを発表させるだけでなく意見のすり合わせをする活動のさせ方、教師の出場、低学力の児童も自分の考えを広げられる授業の持ち方、読んだり発表したりする機会の設定、しっかり聴く態度の育成。
- ④「検証の仕方」として、どの意見、どの発問、どの活動がきっかけで考えが変化していったのかの見極め、その児童なりの考えが出せればよいというわけではないので、教師自身が評価をしっかり持つ。また、子どもたちにつけたい力を明確にし、1時間の授業の中で、子どもたちに力がついたかどうかの評価方法を探る。

## 6、学年部目標

卒業時に目指す子ども像に少しでも近づいているようにしたい。そこで学年部ごとに目標をたてていきたい。この目標を常に意識し、日々の授業を組んでいくこととする。各学年で実際に研究していくときは、国語や算数の教科ごとあるいは単元ごとに、子どもの実態をふまえながらより具体的な目標を立てていくこととする。

### <学年部目標>

低学年……自分の考えをもち、進んで話そうとすることができる。

中学年……自分の考えが相手に伝わるようにはっきり話し、相手の考えを聞いて、自分の考えとの相違に気づくことができる。

高学年……自分の考えと相手の考えとの相違を意識しながら話し合い、考えを深めることができる。

## 7. 年間計画

月	研修主題に基づく研修	学びの一体化に関する研修	人権・同和教育に関する研修	その他の研修
4	研修主題, 研修の方向性についての検討 各学年の研修計画作成	三部会	年間指導計画の検討 研修計画の作成	
5	研究授業		核になる児童を中心に据えた学級づくり計画作成	国語・算数以外の教科の公開(年間)
6	研究授業	授業公開中学校(30)	研究授業	奈良女子大付属小公開授業参加
7	研究授業	三部会	校内実践交流会(30)	QU研修会(30)
8	自分の思いを伝え高め合う授業づくり研修会(30)	小中学校合同部会(2)	保幼小中実践交流会(2) 四同研(22)	学習指導要領改定に伴う研修会(英語も)(11)
9	研究授業		研究授業	
10	研究授業		研究授業 中学校区人権講演会(21)	
11	研究授業	三部会 授業公開小学校(25)	研究授業 全同教大会(20,21)	富洲原保育園公開保育
12	研究授業 研究紀要の柱立て検討			
1	研究授業 研修紀要の作成	三部会	校内実践交流会 北勢同研(28) 笹川西小	家庭教育講座
2		三部会 来年度の方向性検討	年間指導計画見直し 成果と課題の協議	三重大付属小公開授業 研修会参加
3	成果と課題の協議 来年度の方向性検討	三部会	校区人権協研修会 来年度の方向性検討	